

様式3 令和7年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	あいさつと笑顔があふれ 子供が輝く学校 ～魅力づくり 環境づくり 人づくり～
------------------	---

学校名	新座市立石神小学校
実施日	令和8年1月21日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	ノー残業デーやふれあいデーを実施し、毎月、勤務時間についてもグラフで可視化したり、折に触れ管理職からも時間外勤務時間についての話もあるので、働き方を見直すことができている。一方で依然として放課後の会議等が長く、終業時間までに個人の仕事ができない状況が続いている。部会で事前によく話し合ってもらったこと、企画会議でも協議にかけられる内容が、連絡で済むものかを精選し、会議の時間を短くしていくことが必要である。	A	働き方改革の推進には、管理職がリーダーシップを発揮し、校務分掌や時程の見直し、ノー残業デーの導入など、チーム石神小として取り組んでおり、多くの成果が見られた。ただし、学校行事などにおいて多忙な業務を教職員が取り組むこともあり、会議の効率化や業務分担など、さらなる業務改善が求められている。また、教職員同士の連携や自己評価制度の活用によって責任体制を明確にし、学級経営の安定化にも努めている。今後は、DX化の推進を行い業務の効率化を図ったりやICT活用の推進したりなど、学校全体で見通しをもった取組を進めることが重要である。

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、ICTを有効に活用し、発達段階や学力・能力に即した学習指導を効果的にしている。	A	どのクラスにおいてもICTを使用する授業が当たり前となっているが、ICTを使うことが目的になっているようにも感じる。あくまでも手段としてのツールであることを理解し、どのような場面に使用すると有効活用できるのかさらに深めていく必要がある。また、整った文字を書けなくなっていたり、段落構成がうまくいかないなど、基礎基本の力が低下してきている。ノートに記述する場面と分けて指導しデジタルとアナログのバランスの取れた授業展開がより一層求められる。	A	授業においてICTを学習のツールとして効果的に活用している。成果として、学習に対する意欲や興味・関心が高められている。ただし、教員間でICT活用の格差が見られるため、さらなる指導力向上や校内研修の充実が求められる。また、ICTの利用が目的化しないよう、あくまで学習を支える手段としての位置づけを徹底し、基礎学力の定着やノートへの書き取りなどアナログ的な学びとのバランスも重視する必要がある。今後は、ICTと従来の学習方法を効果的に組み合わせ、児童の資質・能力の向上を目指した授業改善を期待する。

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童が友達や教職員・来校者に進んであいさつする態度を醸成している。	A	全教職員とは言えないが、教職員の方からあいさつをしている姿が見られる。生活向上委員会や代表委員会による児童を巻き込んだあいさつ運動は高学年児童が主体となって元気に挨拶している姿は元気をもらえると感じる。またPTAと一緒に校門であいさつ運動をするなど、日常的にあいさつに関する指導や活動は行っている。しかし、もっと誰にでもあいさつを元気づける雰囲気や学校全体で作っていくことができる伸びしろもある。「あいさつの町 石神」プロジェクトの活動を支援していく。	A	児童・教職員・保護者・地域が一体となり、あいさつ運動に積極的に取り組んでいることがうかがえる。子供たちの明るいあいさつが以前と比べて多くなった。特に高学年児童が中心となって活動をリードし、学校全体の雰囲気づくりに貢献している。あいさつは人間関係の基礎であり、児童の健全な成長や地域コミュニティの活性化にも寄与している。地域の方との交流を通して顔見知りになることで校外でのあいさつが増えると考えられる。今後は「あいさつの町 石神」プロジェクトをさらに発展させ、学校だけでなく地域全体にあいさつを広げたいことを期待する。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明

<p>学校は、体育や部活動、休み時間などを通じて、児童が意欲的に運動に親むような取組を行い、体力向上に努めている。</p>	<p>A ブランコが使えるようになったり、ボール遊びができるようになったことで外に行こうとする児童は増えた。また体育委員会を中心に、休み時間の縄跳び計測や体育館でのイベントを通じて運動の楽しさを伝えていると思う。肥満体型の児童が多かったり、歯科の治療率が低いなどの課題があるため、今後は健康教育に取り組んでもよい。</p>	<p>A 児童の体力向上のため、学校では体育委員会を中心に、イベントを開催するなど、児童が楽しく体を動かせる環境づくりに取り組んでいる。ただし、休み時間に外で遊ぶ児童も増えてきたが、教室に残る児童もあり、今後はより計画的な体力向上策が求められている。特に持久走については課題が残っている。今後は体育の授業や休み時間などで、長時間走るという経験を積ませていく必要がある。</p>
---	---	--

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
<p>学校は、保護者や地域と連携した活動を計画的に実施している。</p>	<p>A</p>	<p>民生委員との懇談会、環境美化委員会とどろんこの会との植栽活動、おはなしこんべいとう、朝のコミュニケーション運動、図書室の掲示物作成等、多岐にわたり保護者や、地域の人の力を借りて連携している。50周年記念式典では、和太鼓どどんやアンサンブル☆ルミエールなど地域の方の連携があつてこそ成功できたと言える。</p>	<p>A</p>	<p>学校では、PTA活動や地域住民による登下校の見守り、民生児童委員との懇談会など、多方面にわたり保護者や地域との連携を進めていることが窺える。特に開校50周年記念行事では、和太鼓どどんや、アンサンブル☆ルミエールなど地域の方の協力もあり、開校50周年にふさわしい会となった。一方で教員と保護者、保護者同士の関係も希薄化しコミュニケーション不足などの課題がある。今後は、懇談会などの機会を大切に、双方の交流と情報共有を充実させるなど工夫していく必要がある。</p>